

中国人日本語学習者の外来語習得に関する研究

—M-GTA を用いた質的検討— (要旨)

耿耀耀 (北京日本学研究センター)
gengyaoyao@bfsu.edu.cn

急速にグローバル化が進み、日本人の生活に用いられる新しい外来語が急増している中で、日本語人材育成には外来語知識の重要性がますます目立ってきている。しかし、中国人学習者にとって外来語の習得は容易ではないことが先行研究によってわかってきた。

この研究の目的は、中国人日本語学習者の外来語習得に影響を与える要因を調査することである。本研究は、関連する研究を概観した後、8 人の上級日本人学習者に半構造化インタビューを実施し、インタビューデータを修正版グラウンデッドセオリーアプローチ(M-GTA)を用いて分析した。結果、38 の概念、20 のサブカテゴリーと 5 つのカテゴリーがあぶり出された。最後に、学習者要因、言語要因、学習環境要因の 3 つの側面から、上級学習者による外来語の習得に関わるさまざまな影響要因を考察した。

考察により、外来語の習得には英語の知識が非常に重要であることがわかった。また、学習するにあたり、教材や参考書、教師指導が不足しており、授業時間や出版物のレイアウトの制限などに関係しているため、この問題に注意する必要がある。さらに、外来語を学ぶ際に学習者が直面する困難点に関して、既存の研究で指摘されているものの以外に、中国人学習者が「カタカナ表記が難しい」と考えるのは、カタカナそのものが難しいのではなく、中国人にとってなじみのある漢字語彙との比較によって、カタカナを難しく考えてしまう傾向があることが、本研究のインタビューを通

じてわかった。また、外来語の急増に否定的な見方を示し、外来語使用を避ける現象は、Krashen の「感情フィルター仮説」で説明できる。感情フィルターの心理的障壁が大きい学習者の場合、言語入力の一部のみが言語習得デバイスに入り、言語学習に悪影響を及ぼすことにも注意を払い、心理的障壁を減らしたら、学習者の学習を促進することができよう。